



## 昔遊びを通して見える非認知能力の育ち

園長 立石 晃子

暦の上ではもうすぐ立春を迎えますが、寒い日が続いています。

1月11日（土）にはお正月遊びの会へのご参加ありがとうございました。親子でこまやけん玉、羽根つき、凧作りで昔遊びを楽しんでいただきました。東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパス奇術部の皆さんにも技を披露してもらったり、手品を教わったりし、子供たちは技を習得し嬉しそうでした。

この時期、園では昔遊びの用具を室内外にそろえ、子供たちが興味・関心をもち取り組む環境をつくっています。昔遊びの特徴の一つは、すぐにはできず、できるようになるまでに何度も繰り返し取り組むことに楽しさが味わえることです。中でもこまは発達段階に応じて難易度の異なるこまを一人一人に用意しています。こままわしは手指の巧緻性、集中力の育成に加えて、回し方や回す場所、他の道具との組み合わせで難易度を変えることができ、回し方の工夫を考え挑戦することやあきらめずに取り組むといった非認知能力の育成にもつながる教材です。年少組をのぞくと、子供たちがこままわしに取り組んでいました。年少組のこまは両手を使ってひねって回すこまですが、通常的回し方ができるようになった子供たちは逆さまにして「キノコ回し」をしたり、床ではなくテーブルで回してみたり、友達とぶつかるかぶつからないかの距離で回してそのスリルを味わったりしていました。一人の幼児が井桁ブロックをこまに乗せると木の色のこまがカラフルな色になることを発見すると、瞬く間にクラスの子供たちに広まっていきました。1枚で回せるようになると2枚、3枚と難易度をあげていきます。傍で友達が成功する姿を見ると、うらやましくなったり、自分はできなくてくやしがりたり、両手から片手へ回し方を変えたりと、友達の姿に刺激を受ける姿が見られました。



「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会 最終報告＜概要＞」（令和6年10月 文部科学省）第1章 社会と共有したい幼児教育の基本的な考え方  
3. 幼児教育の基本に、

- ・幼児は、教育的な意図をもって計画的に構成された環境の下、好奇心や探求心をもって遊びを展開する中で、様々な能力や態度を身に付けていく。幼児期においては、遊びを通しての指導を中心に行うことが重要。

と示されています。子供たちがしっかりと遊びに取り組める場所や時間といった環境をつくること、併せて保育者も環境の一つとなり、子供の挑戦や頑張りに気付き認めたり、くじけそうになったときにコツを教えたり励ましたりし、幼児の遊びへの取組を支えています。

# 楽しいこといっぱい！子どもたちの園生活

## <3 歳もも組>

いろいろな動物に変身！！みんなで劇ごっこ楽しいな♪

3 学期が始まって友達や教師との再会した喜びを感じながら、コマ、お手玉、絵合わせかるた、凧あげなどの昔ながらの遊びや、なべなべそこぬけ、おしくらまんじゅうなどの伝承遊びを繰り返し楽しみ、日本の文化に触れました。自分で色塗りをしたコマは特別な宝物です。それぞれのお気に入りのお正月遊びを見つけて楽しんだ子供たちでした。

親子マラソンも続けて走ることを楽しみ、「体がポカポカしてきた」と気付いたことを伝えに来てくれます。

2 月は豆まきや遠足、初めての劇遊びの会もあります。

表現遊びでは、なりきって動くことを楽しんだり、音に合わせて動くことを楽しんだり、一人ひとりが楽しむ姿を認め、表現する楽しさが感じられるように援助をしていきます。

## <4 歳たんぼ組>

**寒さに負けず友達と一緒に何でもチャレンジ！元気いっぱいなたんぼ組**

3 学期の始まりとともに、お部屋にこま、かるた、羽子板、けん玉やお手玉を置いておくと、興味をもってチャレンジしてみる様子がたくさんありました。その中で、だるま落としは、始めは力いっぱい木槌を振っていましたが、上手な友達の様子を見て同じようにやってみると大成功！工夫したり、考えたりしながら楽しんでいました。また、自分のこまに色を塗り、きれいに色付けされたこまが回る様子を嬉しそうに眺めていました。おうちの方と一緒に作った凧も 1 人で上手に揚げられるようになりました。寒い日もマラソンや鬼ごっこをして外で元気に遊ぶたんぼ組の子供たちです。

劇遊びの会に向けて、友達と一緒にの楽しさ、一緒にイメージを共有して表現する楽しさを存分に味わっています。2 月も、友達とのつながりを大事にしながら取り組んでいきます。

## <5 歳ばら組>

**劇遊びの会、大成功☆みんなと力を合わせると、こんなに素敵なことができるよ！！**

3 学期が始まり、おはよう親子マラソンでは保護者の方の付き添いや見守りのおかげで、園の周りを楽しんで走りながら体がポカポカと温まる心地よさを繰り返し味わっています。好きな遊びでも、みんなで誘い合って伸び伸びと走る姿が見られています。最近では、ばら組オリジナル鬼遊びも展開し自分たちで「こうやろうよ！」「これも必要だね！！」などとイメージを共有し、ルールを確認しながら遊ぶ姿もあります。

劇遊びの会では、「昨日は、声が出てなかったから今日は、頑張るね！」「前を向いて、お客さんの方を見ないとね」などと自分たちで録画を観て反省点を振り返り、どんどんどんどん素敵なばら組らしい劇になっていきました。みんなと力を合わせて行う楽しさを十分に味わい、自信もついてきたように感じます。

2 月は、共通の目的に向かって個々がさらに力を発揮する中で、良さを認め合い助け合いながら、自分たちの力で遊びや活動を進める充実感や成し遂げることができた達成感を味わえるよう、援助していきます。小学校への期待や喜びに合わせて、園生活との別れに寂しさや新しい生活への不安も見られています。様々な活動で、それぞれの力を発揮し、満足感や充実感が自信となるよう、丁寧に関わっていきます。